

# 社会的課題に対する農林水産・食品分野の国際標準化・規格活用推進事業

令和8年度予算概算決定額 11百万円（前年度 12百万円）

## ＜対策のポイント＞

社会的課題に対する農林水産・食品分野の国際標準化の議論に積極的・戦略的に関与する取組を実施するとともに、社会的課題への対応に寄与する新たなJAS等の規格の活用・啓発に向けた取組や、これらの分野の新規規格の制定等を推進します。

## ＜事業目標＞

- 農林水産・食品分野において我が国が強みを有する技術・取組を国際標準に反映
- JAS規格の制定件数（91件〔令和5年〕→100件〔令和12年まで〕）

## ＜事業の内容＞

### 1. 国際標準の議論への積極的・戦略的な関与 4百万円（前年度 4百万円）

- ① ISOにおける国際標準化の議論に積極的・戦略的に対応するため、国際標準化機構（ISO）における「スマート農業」に関連する国際標準化の議論の動向を把握し、国内関係者と共有します。
- ② ISOに設置されたスマート農業関連の専門委員会等に対応するための国内体制を整備し、我が国の強みのある分野における新たなJASの制定やISO提案についての戦略を検討します。

### 2. 社会的課題に対する規格等の活用・普及推進調査事業

8百万円（前年度 8百万円）

- ① 持続可能な食料システムに貢献するJAS等の規格について、認証製品の取り扱いの具体的な意義等について事例収集し、これらの規格の認知度向上・普及のための素材を作成します。  
作成素材を活用したセミナー等を開催し、流通・小売業者等に規格の意義や効果等をPRする取組を行います。あわせて、規格の認証事業者等が消費者に對しこれらの規格をPRする取組を推進します。
- ② 生産者・食品事業者を対象として、規格・認証の意義・機能・効果等を理解し、普及できる人材の育成のための研修会を実施します。
- ③ 社会的課題への対応に寄与する新規規格のニーズ・シーズを収集するとともに、それを踏まえた新規規格の制定等の取組を推進します。

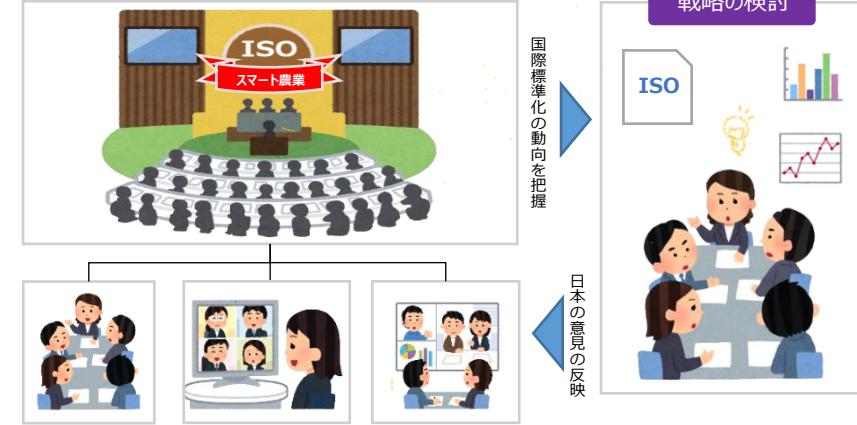
## ＜事業の流れ＞



(1, 2の事業)

## ＜事業イメージ＞

### 1.



### 2.

